

精神保健福祉の理論と相談援助の展開

問題 36 次のうち、諸外国の精神保健医療福祉領域において資格化されている人材として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 ニュージーランドにおける地域支援ワーカー
- 2 韓国における社会工作者
- 3 アメリカにおける認定ソーシャルワーカー
- 4 イギリスにおける認定ピアスペシャリスト
- 5 中国における精神保健専門要員

問題 37 人口40万人のN市では、市の自殺対策推進計画に基づいて、市保健所が中心となり自殺対策を推進している。中学生の自殺報道が続いたため、市の中学校関係者や住民より、「自殺の連鎖が起こらないよう、取組を強化してほしい」と、市保健所へ要望が相次いだ。自殺対策の担当であるG精神保健福祉相談員は、市自殺対策推進会議で、児童生徒など若年層への予防的取組の強化を提案することとした。

次の記述のうち、この時点でのG精神保健福祉相談員の提案内容として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 教師を対象とした、ゲートキーパーの養成研修を開催する。
- 2 自殺の相談は、保健所での来所面接で一括して対応する。
- 3 自殺の危険性が高い人の早期発見は、精神保健福祉士の固有の役割であることを広報する。
- 4 メディアリテラシー教育とともに、情報モラル教育及び違法・有害情報対策に協力する。
- 5 自殺の連鎖を防ぐため、自殺の場所や手段などの詳細を繰り返し伝える。

問題 38 次のうち、アンソニー(Anthony, W.)らの提唱した精神科リハビリテーションの基本原則に関する記述として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 様々な技法を駆使するよりも、特定の技法を適用する。
- 2 障害のレベルに応じて、本人の参加の可否を判断する。
- 3 生活能力の向上よりも、症状の軽減を優先する。
- 4 熟慮した上で依存を増やすことは、結果的には本人の自立につながる。
- 5 本人の技能開発の積み重ねが、回復の十分条件となる。

問題 39 次の記述のうち、精神科デイ・ケアにおけるリワークプログラムとして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 職場復帰してから開始する。
- 2 病気の再発防止よりも、作業能力向上を目指す。
- 3 プログラム終了の判断は産業医が行う。
- 4 グループワークで、職場の人間関係の課題が再現された場合に気付きを促す。
- 5 本人の同意の有無にかかわらず、情報は精神科デイ・ケア内にとどめる。

問題 40 次の記述のうち、包括型地域生活支援プログラム(ACT)の標準モデルとして、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 軽度の精神障害者で、かつ本人の希望があれば利用できる。
- 2 ケアの提供は日中を基本とし、夜間や休日は他機関に委ねる。
- 3 担当者が不在の時にも、多職種チームがケアを提供する。
- 4 利用開始時に期限を決めて、短期間で支援を終結する。
- 5 仲介型のケアマネジメントを基本とする。

(注) 包括型地域生活支援プログラム(ACT)の標準モデルとは、「ACTの標準モデル－ACT全国ネットワーク」(ACT全国ネットワーク発行)の内容とする。

問題 41 次の記述のうち、精神保健福祉士が行う援助プロセスにおけるアセスメントの説明として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 援助活動の効果を評価する。
- 2 利用者の課題の達成状況を振り返る。
- 3 利用者の状況を把握し、社会資源の精査をする。
- 4 具体的な援助内容を立案する。
- 5 援助を受ける意思を利用者に確認する。

問題 42 Hさん(40歳, 男性)は, アルコール依存症の入院治療を終え, 現在は定期的な外来通院やセルフヘルプグループへの参加を継続している。病棟でHさんを担当していたJ精神保健福祉士は, 退院して半年後, Hさんの外来の待合室での様子が気になったことから, 「お久しぶり」と声をかけ, 面接室で話を聴くこととした。Hさんは, 「参加している自助グループの人間関係で悩んだりすることもあるが, トラブルにならないように何とか関係を保っている。今日は話を聴いてもらえてよかった」と語り, J精神保健福祉士はセルフヘルプグループの様子やHさんの気持ちを傾聴した。

次のうち, Hさんの支援過程においてJ精神保健福祉士が行ったこの面接の位置づけとして, **正しいものを1つ**選びなさい。

- 1 プランニング
- 2 モニタリング
- 3 エバリュエーション
- 4 ターミネーション
- 5 フォローアップ

問題 43 次の記述のうち, 精神保健福祉士がクライアントに対して行う面接技法の直面化の説明として, **正しいものを1つ**選びなさい。

- 1 話した内容を別の言葉に換えて簡潔に伝え返すこと。
- 2 話した内容の矛盾点を見定めて指摘すること。
- 3 黙っていることの意味をくみとってまとめて話すこと。
- 4 考えや気持ちを単純な質問で引き出すこと。
- 5 否定的な内容を肯定的な意味づけに変えること。

問題 44 次の記述のうち、グループワークにおいて精神保健福祉士が行うこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 グループ内の規範を定めずに、メンバーの自由な活動を推進する。
- 2 メンバーの役割を固定して、効率的にプログラムを進行する。
- 3 メンバーの体験談を活用して、社会的スキルの獲得を促進する。
- 4 メンバー間の葛藤を回避して、グループ活動が円滑に進むようにする。
- 5 終結期では、メンバー間の凝集性を強化する。

問題 45 事例を読んで、次の記述のうち、精神保健福祉士が面接場面でKさんの母親に提案したこととして、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Kさん(28歳、男性)は、大学在学中に統合失調症と診断され、卒業後は就職せずに自宅療養が続いていた。半年前から精神科デイケアを利用している。Kさんはデイケア担当の精神保健福祉士との面接で、「やっとデイケアに慣れたところなのに、父にも母にも『世間体が悪いので、早く働け』と毎日言われ、まいっている」と話した。精神保健福祉士は、Kさんの了解を得て母親と面接することになった。面接で母親は、「Kはデイケアに行く以外は寝てばかり。近所の目も気になり、ついイライラして小言を言ってしまう。もう28歳にもなるのに仕事もせず、親戚の集まりで肩身が狭い。父親はもうすぐ60歳になるし、早く働いてほしい」と畳み掛けるように話していた。

- 1 「病気の経過や治療方針について主治医から改めて説明してもらってはどうか」
- 2 「世間の人あまり見ていないので、気にしないようにしてください」
- 3 「心配事を話せる場として家族教室に参加してはどうか」
- 4 「Kさんを毎朝起こし、生活リズムを管理しましょう」
- 5 「Kさんにはデイケアをやめて就労移行支援事業所に通所してもらいましょう」

問題 46 次の記述のうち、コンサルティの説明として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 コンサルタントから監督及び指導を受ける。
- 2 業務上の課題を抱えた個人，集団，組織，地域社会である。
- 3 コンサルタントがクライアントに対して直接的な援助を行う。
- 4 個人の抱えた私的な悩みをコンサルタントに伝え，相談する。
- 5 得られた助言の内容は，自ら評価し，採用するかを決める。

問題 47 事例を読んで、Lさんとその母親に対するM精神保健福祉士の対応に関する次の記述のうち、適切なものを2つ選びなさい。

〔事例〕

Lさん(48歳, 男性)は精神科病院に入院して1年が経過している。入院して6か月の時点で退院調整を始めた矢先に同居の母親が脳梗塞で緊急入院となり、Lさんの動揺も相まって退院が遅れていた。父親は10年前に亡くなり他に家族はいない。母親は左上下肢に多少の麻痺^{まひ}が残るも1か月前に自宅退院し、訪問介護を利用している。Lさんは、「自分も早く退院して苦勞をかけた母親の面倒を見て恩返しをしたい」と話し、病棟のM精神保健福祉士は相談支援専門員と連携してLさんの退院支援を進めた。退院前の自宅外泊から病棟に戻ってきたLさんは、切羽詰まった様子で、「昨日の夕食後、母親が皿を片付けようとした時よろけて尻もちをついてしまった。割れた食器が床に飛び散り、自分はパニックになって何もできなかった。同じようなことがまた起きたらどうすればいいのか」とM精神保健福祉士に訴えた。

- 1 Lさんの不安が解消されるまで入院できることを伝える。
- 2 Lさんと昨日の夕食後に起きたことを順序立てて、一緒に振り返る。
- 3 母親の介護医療院の利用を担当の介護支援専門員に検討してもらう。
- 4 Lさん、母親、M精神保健福祉士、介護支援専門員、相談支援専門員による自宅での会合を提案する。
- 5 Lさんに相談支援専門員同行で生活介護事業所の見学を勧める。

問題 48 次のうち、ケアマネジメントに関する記述として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 家族や関係者の抱える負担の解決を一義的な目的とする。
- 2 利用契約を結んだ上で、利用同意の説明を丁寧に行う。
- 3 ケア計画は本人の意向で変更できないことを説明する。
- 4 本人の了解を得て、必要に応じてボランティアと情報共有を図る。
- 5 契約後であっても、本人の希望に応じて担当する相談支援専門員を変更できると伝える。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 1)

次の事例を読んで、問題 49 から問題 51 までについて答えなさい。

〔事例〕

精神保健福祉センターの思春期相談担当の A 精神保健福祉士(以下「A 相談員」という。)の下に、B さん(45 歳, 女性)が娘 C さん(14 歳)のことで相談に来た。B さんの話によると、「C は 3 か月ほど前の中学 2 年に進級した頃から食べなくなり、急激に痩せてきた。食べるように言うと怒って部屋に入ってしまうので、どうしたらいいか分からない」養護教諭からこちらの思春期相談を勧められ、本人が拒んだので私だけで相談に来た」という。面談を終えた後、A 相談員は B さんに少し待ってもらい、C さん宛てに書いた手紙を渡してもらうように伝えた。(問題 49)

2 週間後、C さんは A 相談員の下を訪れ、面談するようになった。C さんは面談の中で、「勉強も部活も頑張ってきた。陸上部で良い成績を出すために減量を始めたが、最近は練習についていけない。部活の友達にはどうしても負けたくない」家で母親に食べろと言われるのがとても嫌でよくけんかになる。でも、仕事で活躍している母親のことは尊敬している」などと話すようになった。

週に一度の面談を 1 か月ほど重ね、夏休みを迎えた頃、C さんは、「部活の顧問から体調が心配だから休むように言われてしまった」家で過食や嘔吐おうとを繰り返している「もうどうしていいか分からない」と A 相談員に訴えるようになった。その頃には更に痩せて、肥満度マイナス 25 % まで減少していた。A 相談員は C さんに児童専門の精神科受診を勧めていたところ、ようやく受診に至った。診察後、主治医は、「今の状態が続くと 2 学期の登校は難しいのではないかと C さんと B さんに伝えたが、C さんは学校も部活も休みたくない并希望した。報告を受けた A 相談員は、C さんと B さんに学校、医療機関との関係者会議を持つことを提案した。(問題 50)

関係者会議の数日後、B さんは一人で A 相談員の下へ相談に訪れた。B さんは、「C がこのようになったのは私のせいではないか」「このまま仕事を続けていていいものか悩んでいる。しかし、実は責任のある仕事を任されるようになったばかりで、誰にも相談できずにいる」と思い詰めた様子で語った。(問題 51)

問題 49 次の記述のうち、**A**相談員が**C**さんに書いた手紙の内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 あなたは摂食障害という病気なので、早めに相談に来てください。
- 2 なぜ食べられないのでしょうか。一緒に考えていきましょう。
- 3 家族のことや学校のことなど、なんでもいいので話に来ませんか。
- 4 あなたのつらさの要因はご家族にあるので、あなたは何も悪くありませんよ。
- 5 あなたを入院させたくないなので、まずこちらに相談に来ませんか。

問題 50 次の記述のうち、**A**相談員が提案した関係者会議の目的として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 **C**さんが食べない原因を共有し、食事と体重管理の体制を構築する。
- 2 学校が実施できる合理的な配慮について確認する。
- 3 忙しい**B**さんに配慮し、今後の方針を医療機関と学校で決めていく。
- 4 **C**さんの病状と治療計画に関する情報を学校関係者と共有する。
- 5 **C**さんの気持ちをくんで、放課後の部活動への参加を検討する。

問題 51 次の記述のうち、**B**さんへの**A**相談員の対応として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 仕事を続けるかどうかは、**C**さんに決めてもらってはどうかと提案する。
- 2 母親としての役割は大きいので、しばらく仕事は控えるよう助言する。
- 3 **C**さんの病気の要因として考えられることを挙げてもらい、改善策を伝える。
- 4 **C**さんのためにも、責任ある仕事を引き受けて活躍する姿を見せるよう勧める。
- 5 **C**さんのケアと仕事を両立する方法を検討し、**B**さんが選択できるよう支援する。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 2)

次の事例を読んで、問題 52 から問題 54 までについて答えなさい。

〔事例〕

Dさん(62歳, 男性)は, 和食店で働いていた25歳の時に統合失調症を発症した。入退院を繰り返したが, 40代以降は母親と同居し, 通院のみで病状も落ち着いていた。Dさんが55歳の時に同居の母親が亡くなって, 一人暮らしとなったために生活が乱れて妄想がひどくなり, 精神科病院に入院となった。その後, Dさんは相続した自宅を不本意ながら売却することになった。Dさんは, 入院後も何度か病状が再燃し, 5年が経過した。新たに病棟担当になったE精神保健福祉士がDさんと面接すると, Dさんは, 「自分は長男だから家を守っていくつもりだった。弟に『兄さんのこれからの生活のためにも売却した方がいい』と押し切られた」と感情的に語った。(問題 52)

Dさんは, E精神保健福祉士との面接を通して徐々に落ち着きを取り戻し, 主治医より退院の話も出るようになった。そして, 「一人暮らしをしてみたい」と話し, 退院を希望した。入院中の服薬や食事などの管理は看護師が行っていたが, 「今はいい状態なので, 帰る家さえ決まれば退院できると思う。一人暮らしは初めてだが, 料理はできるし, なんとかなる」と話した。E精神保健福祉士は, 本人も参加するカンファレンスで退院に向けた病棟での働きかけを検討した。(問題 53)

Dさんは, 地域移行支援を利用し, グループホームの体験宿泊を繰り返しながら, 退院準備を進めた。掃除やごみ出しに苦勞していたが, 半年後に退院し, ホームヘルパーに掃除や洗濯を手伝ってもらいながら一人暮らしをしている。また, 自宅で料理を楽しんだり, 地域活動支援センターの料理会に積極的に参加している。1年が経過した頃, 相談支援事業所のF精神保健福祉士は, ホームヘルパーよりDさんが時々訪問日を間違えると報告を受けた。また, 外来で何度も血糖値の高さも指摘された。Dさんも, 「この前, 道に迷ってしまった。コンロの火を消し忘れてしまった。今まではそんなことなかったのに」と言っており, F精神保健福祉士は本人と相談して, 主治医を含む関係者とカンファレンスを開催することにした。(問題 54)

問題 52 次の記述のうち、この時にE精神保健福祉士がDさんに伝えた言葉として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「長男として悔しいし、やりきれなかったですね」
- 2 「弟さんはDさんの意向に反して実家を処分し、ひどい人ですね」
- 3 「病棟の中でDさんの楽しめることを見付けていきましょう」
- 4 「お母様は亡くなる前にDさんのことを考えてくれればよかったですね」
- 5 「実家はもうないので、諦めましょう」

問題 53 次の記述のうち、カンファレンスで検討したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 病棟の看護師がDさんの服薬管理を強化する。
- 2 ピアサポーターにDさんの一人暮らしに必要な日用品の買物を依頼する。
- 3 病棟で間食の量を決めてカロリーを制限する。
- 4 病気の理解を深めるための勉強会に参加する。
- 5 アパート探しのために外出する。

問題 54 次の記述のうち、カンファレンスで示された方針として、適切なものを2つ選びなさい。

- 1 糖尿病の専門外来につなげる。
- 2 ホームヘルパーは、Dさんに代わって買物や料理を行う。
- 3 困ったときの相談先をあらかじめDさんと確認しておく。
- 4 Dさんが道に迷うことが心配なので、外出を控えてもらう。
- 5 地域活動支援センターの料理会は火を扱うので、他のプログラムを勧める。

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 3)

次の事例を読んで、問題 55 から問題 57 までについて答えなさい。

〔事例〕

留学生である V 大学 1 年生の G さん(19 歳, 男性)は, 日本のアニメに興味を持ち, V 大学に入学した。G さんは大学の学生寮に入寮し, アニメ同好会に入部した。友人もでき, 同級生の H さんとも仲良くなり, 楽しい大学生活が始まったと実感していた。しかし, 夏休みに H さんと些細な^{ささい}ことでけんかして疎遠になり, 夏休み明けから大学を休みがちになった。心配した友人の J さんは G さんにソーシャル・ネットワーキング・サービス(SNS)で連絡をするが, 返信がなかった。12 月になり G さんは, SNS に「みんなに嫌われているから大学に行きたくない」「最近は何となく外にも出られない」などと書き込んだ。心配した J さんは, このことを学生課に相談した。その後, 学生課より連絡を受けた, 学生相談室の K 精神保健福祉士(キャンパスソーシャルワーカー)は, 今後の対応について検討した。(問題 55)

その後, K 精神保健福祉士と定期的に面接を行うことができるようになった G さんは, 元来努力家で真面目な性格なため, 「授業を欠席することに罪悪感がある」「もうみんなに嫌われているかもしれない。不安だ。大学に行けない」「最近は何となく夜も眠れず, 体がだるい」と話した。K 精神保健福祉士は, G さんのつらさや不安に寄り添いながら W 精神科クリニックへの受診を勧め, 同行した。診察の結果 G さんは適応障害と診断され, 3 か月程度の療養が必要と言われた。それを受け, G さんは両親や K 精神保健福祉士とも相談し, 大学を休学し一度帰国して自国で療養することとなった。(問題 56)

3 か月が過ぎた頃, G さんから K 精神保健福祉士に, 「元気になったから, また後期から大学に行きたい。来週, 日本に戻るので相談したい」と連絡があった。その後の面談では, 「友人とうまくやっていけるか心配だし, 不安になるとまた眠れなくなる」と G さんが語った。それを踏まえて, K 精神保健福祉士は G さんが 2 年生後期から復学するための準備として, 友人との関係を回復するために, 大学の学生相談室で行われている SST のうち, 個別支援ができる「ひとり SST」に G さんを誘ってみた。(問題 57)

問題 55 次の記述のうち、この時点でのK精神保健福祉士が検討した内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 大学全体で考えるために、全教員にGさんの情報を知らせる。
- 2 Jさんに心配している内容を確認する。
- 3 学生たちに対して、SNSのルールについての講習会を開く。
- 4 留学生が一人にならないために、支援体制を整える計画を大学へ提案する。
- 5 Gさんに連絡し、「なぜ、そのようなことをしたのか」と注意する。

問題 56 次の記述のうち、この場面でK精神保健福祉士がGさんに向けた言葉として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「どんなアニメが好きですか」
- 2 「Hさんと何があったのですか」
- 3 「これまで受診しなかったのはどうしてですか」
- 4 「家族の中に、精神科受診歴のある人はいますか」
- 5 「休学について、何か不安はありますか」

問題 57 学生相談室で行われた「ひとりSST」の場面で、K精神保健福祉士がGさんに対して期待したこととして、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 自分自身を振り返り、不安になった理由を考えること
- 2 アルバイトを探して、経済的に安定すること
- 3 交際相手を見付けて、楽しい生活を送ること
- 4 ピアサポーターとなって、他の留学生の支援を行うこと
- 5 受診や服薬を忘れずに行い、規則正しい生活を送ること

(精神保健福祉の理論と相談援助の展開・事例問題 4)

次の事例を読んで、問題 58 から問題 60 までについて答えなさい。

〔事例〕

政令指定都市の P 市保健所で働く L 精神保健福祉相談員(精神保健福祉士)(以下「L 相談員」という。)に、P 市に住む父親の M さん(80 歳)と長女の A さん(50 歳)の事で、民生委員から相談があった。「ごみが庭にあふれ悪臭もあり、近隣住民が不安に思っている。M さんは外に向かって怒鳴るし、A さんの姿を見なくなった。精神的な病気があるかもしれないので保健所に相談に来た。M さんと A さんが心配だ」とのことだった。次の日、L 相談員は M さん宅を訪問した。(問題 58)

玄関から声をかけると M さんは、「俺の勝手だ。ほっといてくれ」と強い口調で言いドアを閉めた。A さんの姿は確認できず、名刺を置いて M さん宅を離れた。L 相談員は、M さん親子についての情報収集や今後の支援方法を、関係機関と検討する必要があると判断し、地域包括支援センターに連絡した。その結果、地域ケア会議が開かれることとなり、初回会議には L 相談員の他に地域包括支援センターの保健師、社会福祉協議会の福祉活動専門員、P 市高齢福祉課の担当者、民生委員が参加した。(問題 59)

L 相談員が訪問を続けると、A さんが玄関先に出てくれるようになった。2 か月が過ぎた頃 A さんから、「何とかしようと思っていました。でも父は怒りやすくなり、話もかみ合わなくて。私も気分が落ちて、朝は布団から出られなくなって。2 年前に 15 年ほど勤めた会社を辞めたんです。それから、どうしようもなく…」と話があった。詳しく話を聴くと、M さんには認知症、A さんには精神疾患の疑いがそれぞれあり、支援を希望していることが分かった。

チームによる支援を続け 1 年が過ぎた。少しずつ居住環境は改善されつつある。また、現在 M さんは通所介護(デイサービス)を利用しており、A さんは精神科クリニックへ通院を続けている。A さんは、「気持ちが落ち着いてきたような気がします。でもこれからですね」と L 相談員に話した。この支援をきっかけに、L 相談員は M さん親子のような課題を持つ方への支援の充実や支援体制の構築が必要と考え、「障害者総合支援法」に基づく P 市協議会で検討することを提案してきた。(問題 60)

(注) 「障害者総合支援法」とは、「障害者の日常生活及び社会生活を総合的に支援するための法律」のことである。

問題 58 次のうち、この時点のL相談員が行った援助方法として、正しいものを1つ選びなさい。

- 1 アドミニストレーション
- 2 アサーション・トレーニング
- 3 アウトリーチ
- 4 アクションリサーチ
- 5 アクティング・アウト

問題 59 次の記述のうち、この時点の会議におけるL相談員の提案として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 「積極的な介入をそれぞれ競い合しましょう」
- 2 「期間を設定して、アセスメントをしましょう」
- 3 「所属の専門性をいかした独自の支援計画を立て、それぞれ進めましょう」
- 4 「チームの人数をもっと増やして、支援体制を作りましょう」
- 5 「訪問は、どんな状況でも同じメンバーでしましょう」

問題 60 次の記述のうち、L相談員がP市協議会で最初に提案したコミュニティソーシャルワーク実践の内容として、適切なものを1つ選びなさい。

- 1 SWOT分析を用いて、住民意識や支援者の状況を把握する。
- 2 P市の全戸訪問を行い、セルフネグレクトの可能性のある世帯を把握する。
- 3 Mさん家族に対応した支援ネットワークの形を変えず、他の地域課題にも対応していく。
- 4 P市全域を対象として、見守りボランティアを募る。
- 5 メーリングリストを活用して、クライアントの個人情報を迅速に共有する。